

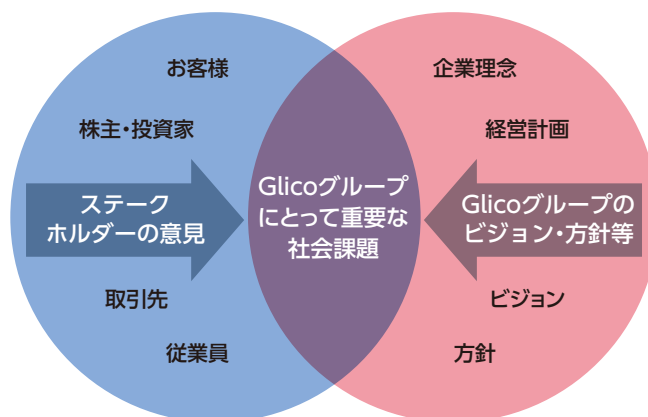
Glicoグループの重要課題 (マテリアリティ)

国際的なガイドラインに即した重要課題 (マテリアリティ) の特定

Glicoグループでは、CSRマネジメントの充実を図るために、経営の重要課題 (マテリアリティ) を明らかにするため、調査・分析を行いました。

分析の際は企業の非財務情報開示の国際基準であるGRIスタンダードを参照しています。

これは今後のCSR活動の計画・目標作りの土台になるとともに、CSRレポートの客観性等を高めるための取り組みです。



参照アンケート

①お客様

お客様センターに寄せられたご意見

②株主・投資家 (機関・個人)

定時株主総会質疑応答
江崎グリコ 株主・投資家アンケート
決算説明会アンケート
個人投資家説明会アンケート
会社説明会アンケート

③取引先

取引先アンケート

④従業員

従業員アンケート

<重要課題を特定するステップ>

STEP
1

私たちに関わりの深いステークホルダーの方々のGlicoグループに対する意見 (各種アンケート) を解析することにより、重要な社会課題の抽出を試みました。

STEP
2

Glicoグループ内の役職者等に意識調査を実施し、STEP1で抽出された社会課題の重要性について順位づけを行いました。

STEP
3

ステークホルダーにとっての重要性 (STEP1) とGlicoグループにとっての重要性 (STEP2) の二つの視点を組み合わせて重要なテーマを絞り込み、CSR委員会による合議を経て、重要課題を特定しました。

STEP

1

ステークホルダー視点によるGlicoグループの社会課題の抽出

①ステークホルダー別のアンケート調査結果における全ての回答を分析し、Glicoグループにとっての重要な社会課題を抽出。そこから重要課題の候補となる項目をリストアップし、13の категорияに分類。

②分類した13の categoriaに、ステークホルダーの回答数に準じて重要性得点を付与。

③各 categoriaの重要性得点合計に応じて、categoriaの順列を決定。

④決定した各 categoriaの順列に従って、重要課題マップの縦軸にプロット。

重要性の高い13の categoria (縦軸)

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 a. 企業統治 | 8 h. 供給 |
| 2 b. マーケティング・商品価値の向上 | 9 i. 健康増進・育児支援 |
| 3 c. 情報開示 | 10 j. 環境 |
| 4 d. 品質安全 | 11 k. 健全な事業活動・企業価値の向上 |
| 5 e. 調達 | 12 l. 株主還元 |
| 6 f. 働きやすい職場づくり | 13 m. 海外事業 |
| 7 g. 人材育成 (スキル) | |

STEP
2

Glicoグループ視点による重要性の高い社会課題の選定

- ①STEP1で分類された13の категорияについて、Glicoグループの役職者等にアンケートを実施。
- ②13の категорияについて、重要度が高いと思われる経営課題の順に重要性得点を付与。
- ③各 категорияの重要性得点合計に応じて、 категорияの順列を決定。
- ④決定した各 categoriaの順列に従って、重要課題マップの横軸にプロット。

重要性の高い13の categoria (横軸)	
1	b. マーケティング・商品価値の向上
2	d. 品質安全
3	k. 健全な事業活動・企業価値の向上
4	f. 働きやすい職場づくり
5	a. 企業統治
6	m. 海外事業
7	g. 人財育成(スキル)
8	i. 健康増進・育児支援
9	l. 株主還元
10	j. 環境
11	h. 供給
12	c. 情報開示
13	e. 調達

STEP
3

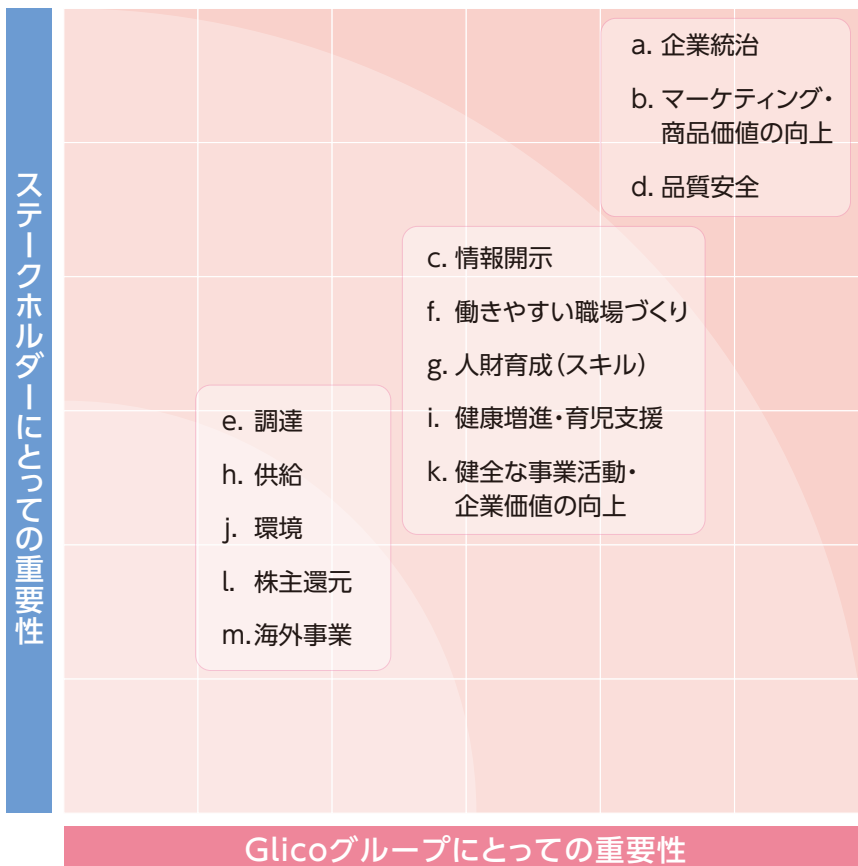
重要課題の特定

- ①STEP1、2で縦軸・横軸にプロットされた13の categoriaを、重要課題マップ上にマッピング。
- ②ステークホルダーにとって重要度が高く、かつGlicoグループにとっても重要度の高い項目を特定。
- ③この結果をCSR委員会に諮り、合議を経たうえで、Glicoグループの重要課題として特定。



CSR委員会による討議

Glicoグループの重要課題マップ



特に重要度の高い3つの categoriaについては、当報告書に「CSR活動トピックス」を掲載 (P.15~16参照)

TOPICS 1

企業統治

TOPICS 2

マーケティング・商品価値の向上

TOPICS 3

品質安全

CSR活動トピックス

Glicoグループの重要課題として、特に重要度が高いと特定された3つのカテゴリーに関する活動トピックスを報告いたします。

TOPICS 1 企業統治

グループ一丸となったCSR推進に向けて

—— 第1回CSRサミット開催



第1回CSRサミットの様子(方針説明)

Glicoグループでは、社会の要請に誠実に対応し、事業を通じた社会課題解決の取り組みを加速させていくため、2018年4月27日に「第1回CSRサミット」を開催しました。

本サミットでは、日本、中国、韓国、ASEANの拠点を接続し、CSR委員会関係者およびCSR職場推進リーダーの合計約140名が参加しました。

冒頭、CSR委員長よりグループ共通のCSRの考え方や意義が共有され、続いて各部長(環境・消費者・公正取引・人財・地域貢献の5部会)より、目的・目標が示されました。その後、「現代社会を踏まえて取り組むべき重要課題と解決策のアイデア」

TOPICS 2 マーケティング・商品価値の向上

「Pocky 地元応援プロジェクト」第1弾

—— 公益財団法人を通じて、長野県の農業団体に助成金を贈呈



Share happiness! **Pocky**
分かち合っていて、いいね!

各地の主要駅や空港等の土産店で販売する地元ポッキー

全国各地の主要駅や空港等の土産店で販売している「地元ポッキー」は、地域の行政・JA・農家の方々等、地域コミュニティの協力を得て商品の原料開発を行うとともに、地域の厳選素材・人・土地の魅力を発信しています。

そのなかで、長野県の農家の方々との対話を通じ、「旬のおいしい特産品を食べてもらいたい」「特産品の魅力を知ってもらいたい」という想いに触れ、特産品を地元ポッキーとともにお届けする「Pocky地元応援プロジェクト」をスタートしました。

このプロジェクトでは、クラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」を活用し、旬の特産品と地元ポッキーを知って

TOPICS 3 品質安全

日本初、乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を販売開始

—— 災害時の備えと育児の負担軽減に



アイクレオ赤ちゃんミルク

近年の度重なる自然災害によって、非常時に赤ちゃんの命をつなぐミルクの確保が難しいことが明らかになってきました。また、お母さんへの過度な育児負担が問題視される中、調乳不要の液体ミルクが注目されるようになりました。女性労働率が高く子育て先進国と呼ばれる北欧では、育児をサポートするツールとして50年ほど前から液体ミルクが活用されています。

そうした社会課題を背景に、日本においても液体ミルクの発売が急務と捉え、江崎グリコでは2016年から開発に着手し、新生児から飲める安全性と、注ぐだけで準備できる簡単さを両

をテーマとしたワークショップも開催し、今後グループ全体として注力すべき課題や、各グループ会社・部門等の現場レベルにおいてどのような対応が必要かについて、16の班に分かれて活発な議論を行いました。

本サミットの参加者を対象としたアンケート調査では、参加者のうち95%が「CSR推進に向けて活動意欲が高まった」と回答し、視座を高める重要な機会となりました。

今後も、継続的にCSRサミットを開催し、グループ一丸で活動を前進させていきます。



第1回CSRサミットの様子(ワークショップ)

もらうだけでなく、地元の魅力を伝えることで、農業活性化のための活動資金を募集しました。その結果、1カ月間で当初の目標金額を上回る支援金が集まり、支援者に旬の信州巨峰と「ポッキー〈信州巨峰〉」等をお届けしました。集まった総額60万円の活動資金は、公益財団法人「長野県みらい基金」を通じ、公募で決定した6つの農業関連団体に助成金として贈呈し、将来の農業の担い手を増やすための活動や農業育成事業に使用される予定です。

今後も、「地元への恩返し」をテーマに、地元ポッキーを通じた地域コミュニティへの貢献に取り組んでいきます。



2018年12月20日「Pocky 地元応援プロジェクト基金」の贈呈式

立した「アイクレオ赤ちゃんミルク」を開発しました。同商品は2019年3月5日に、消費者庁より特別用途食品の表示許可を受け、同日、自社通販サイトにて販売を開始しました。

長期保存ができるため災害時の備えに有効なほか、外出時や調乳に不慣れな家族に預ける際にも便利で、育児の負担軽減をサポートします。災害時には赤ちゃんの命を守り、日常では子育てを支援する取り組みを進めていきます。



2019年3月11日「アイクレオ赤ちゃんミルク」体験会の様子